

第2次大田区環境基本計画

行動計画 2025 抜粋

Annual Action Plan

Report

2026（令和8）年3月

第2次大田区環境基本計画 概要

指標 進捗状況

カギ（視点）	指標	計画策定時	最新値	目標値	達成度
脱炭素社会への移行 環境	大田区における温室効果ガス排出量の削減率（2013年度比）	▲13.9% 2021年度実績	▲16.4% 2022年度実績	▲50%	32.8%
	環境×生活 省エネ行動に取り組む区民の割合 ※3項目以上	76.7% 2023年度実績	86.8% 2025年度実績	82%	105.0%
	家庭のCO ₂ 排出量の削減率 ※家庭部門（2013年度比）	▲9.9% 2021年度実績	▲13.5% 2022年度実績	▲50%	27.0%
	環境×経済 事業者のCO ₂ 排出量の削減率 ※業務部門+産業部門（2013年度比）	▲21.9% 2021年度実績	▲22.7% 2022年度実績	▲50%	45.4%
	大田区役所の温室効果ガス排出量の削減率（2013年度比）	▲31.5% 2023年度実績	▲30.8% 2024年度速報値	▲51%	60.0%
	環境に配慮した経営をする企業の割合（脱炭素化） ※中小規模事業所	13.4% 2023年度実績	- (2026年度予定)	35%	-
自然再興の取組 環境	みどり率	25.3% 2018年度実績	- (2028年度予定)	28%	-
	(参考) 緑被率	(参考) 18.32%	-	(参考) 21.5%	-
	環境×生活 生き物の豊かさの満足度	27.2% 2023年度実績	44.1% 2025年度実績	40%	110.3%
	身近な場所で水や緑に親しめると感じている区民の割合	58.8% 2024年度実績	61.1% 2025年度実績	62%	98.5%
	環境×経済 環境に配慮した経営をする企業の割合（生物多様性） ※中小規模事業所	4.9% 2023年度実績	- (2026年度予定)	29%	-
循環経済への移行 環境	区民1人1日当たりのごみ量と資源の総量	585g 2023年度実績	569g 2024年度実績	542g	37.2%
	環境×生活 ごみ減量・リサイクルに取り組む区民の割合	73.9% 2023年度実績	- (2026年度予定)	80%	-
	家庭系食品ロス量の削減率（2021年度比）	-	▲3.4% 2022年度実績	▲31%	10.9%
	環境×経済 環境に配慮した経営をする企業の割合（資源循環） ※中小規模事業所	39.0% 2023年度実績	- (2026年度予定)	54%	-
	事業系食品ロス量の削減率（2021年度比）	-	▲17.1% 2022年度実績	▲31%	55.1%

行動計画「各事業の活動状況」評価方法

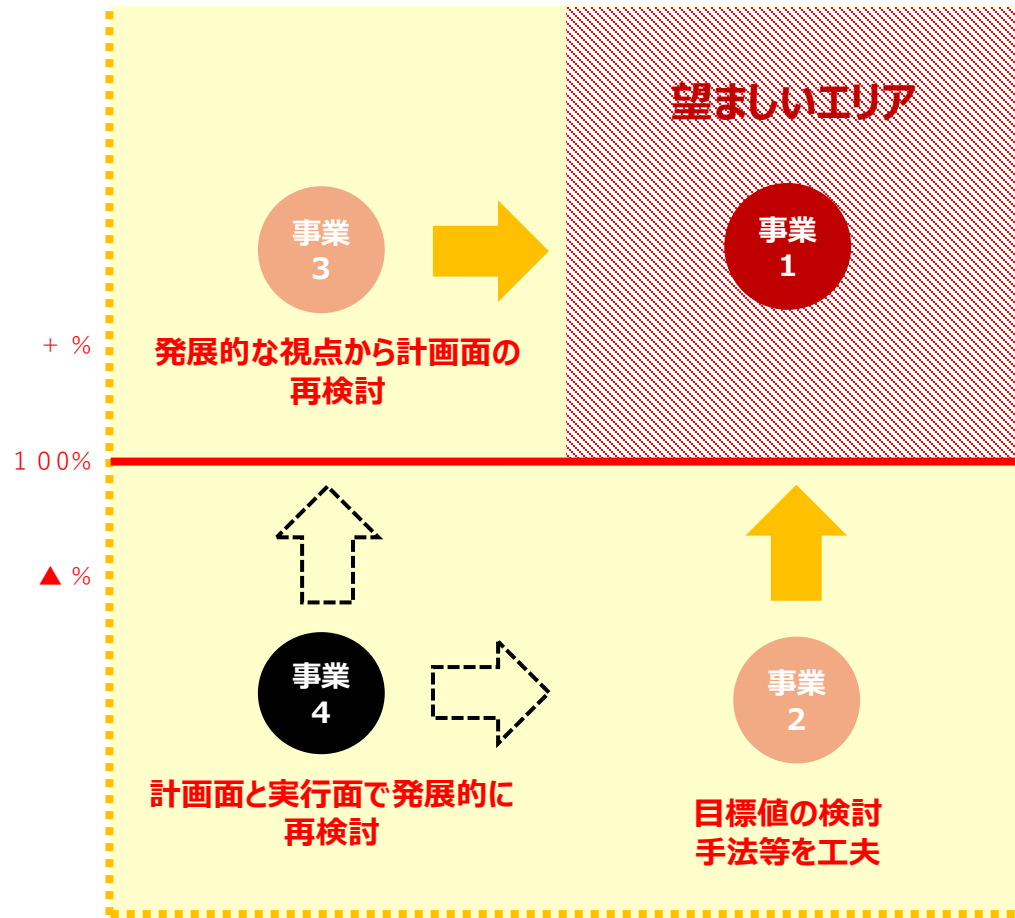
「行動計画」では「どれだけパフォーマンスを発揮しているか」を評価します。

- ① 横軸に**計画面**を取り、事業活動のスキームを評価（加点）します。
- ② 縦軸に**実行面**を取り、事業活動の実施結果を評価（達成度）します。
- ③ 両者の値で決まる点の分布状況によって、施策（取組の方向性）ごとに**各事業（活動）のパフォーマンスを可視化**します。

実行面

実績評価 (指標の達成度 %)

※ 事業活動による定量的なアウトプット及びその目標値。一部前年度比で評価



評価項目	各項目に該当すれば加点します。(各2点×7項目=14点満点 →10点満点に換算)
A: ターゲット	狙いとする層が明確である。また、事業の性質に応じて参加者が固定化されないように工夫を凝らしている。
B: 影響度	事業目的以上の波及効果が期待できる。
C: ニーズ	区民等からの要望が多いほか、区民等が抱える悩みや課題の解決にマッチし、区民生活の向上や住みやすい地域環境の構築に寄与している。
D: 地域性	地域特性を踏まえた、大田区らしさ（独自性）がある。
E: 効率性・生産性	無駄が少なく資源を有効に活用することで、コスト削減に貢献している。もしくは、あらゆる工夫により生産性の向上に努めている。
F: パートナーシップ	区民、事業者、関係部局と連携している。
G: 先取性	新しいアイデアや技術等を積極的に導入するなど先進的な取組となっている。

各施策の表に記載している事業設計のアルファベットはこちらをもとに記載しています。

計画面 事業設計評価

※評価項目の加点配分及び各事業の設定指標については固定化せず、状況の変化を捉えて見直します。

R6大田区における脱炭素社会への移行

I.概要と目標

第2次大田区環境基本計画では、環境・生活・経済の好循環による「持続可能な環境先進都市おおた」の実現を目指しています。この目標達成において「脱炭素社会への移行-カーボンニュートラル」の実現は中核的要素です。

第2次大田区環境基本計画では、2030年度までに区全体の温室効果ガス排出量を2013年度比で50%削減するという野心的な目標を掲げています。現状では16.4%の削減（2022年度実績）にとどまっており、目標達成に向けては今後さらなる取組の加速が求められます。

	指標	計画策定時	最新値	目標値	達成度
環境	大田区における温室効果ガス排出量の削減率（2013年度比）	▲13.9% 2021年度実績	▲16.4% 2022年度実績	▲50%	32.8%
	環境				
生活	省エネ行動に取り組む区民の割合 ※3項目以上	76.7% 2023年度実績	86.8% 2025年度実績	82%	105.0%
	家庭のCO ₂ 排出量の削減率 ※家庭部門（2013年度比）	▲9.9% 2021年度実績	▲13.5% 2022年度実績	▲50%	27.0%
経済	事業者のCO ₂ 排出量の削減率 ※業務部門+産業部門（2013年度比）	▲21.9% 2021年度実績	▲22.7% 2022年度実績	▲50%	45.4%
	大田区役所の温室効果ガス排出量の削減率（2013年度比）	▲31.5% 2023年度実績	▲30.8% 2024年度速報値	▲51% (2013年度)	60.0%
	環境に配慮した経営をする企業の割合（脱炭素化）※中小規模事業所	13.4% 2023年度実績	-	35%	-

II.取組

1.環境配慮型ライフスタイルへの転換

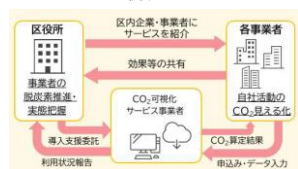
1. 区民の行動変容促進（環境に関する情報の提供、区民運動おおたクールアクションの推進、こども環境教室）
2. 事業者の行動変容促進（CO₂可視化システム、省エネ診断受診促進）

夏休みこども環境教室

区民運動おおたクールアクションのつどい



CO₂可視化システム



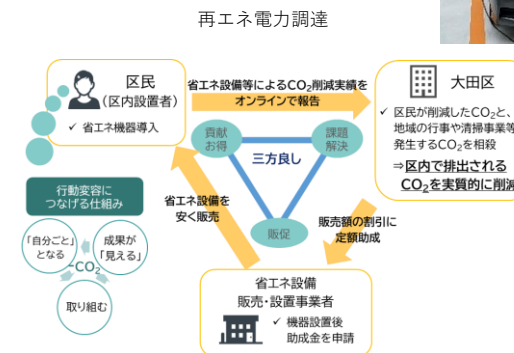
II.取組

2.脱炭素まちづくりの推進

1. 再生可能エネルギー導入拡大（住宅用太陽光発電設備助成）
2. 省エネ機器・設備導入拡大（エネファーム助成、LED化支援）
3. 区による率先行動（公共施設のZEB認証、再エネ電力調達、庁有車電動化）



エネファーム



庁有車電動化

III.今後の展望

「大田区における温室効果ガス排出量の削減率」の目標を達成するには、「家庭部門のCO₂排出量削減率」を高める必要があります。「省エネ行動に取り組む区民の割合」は高いものの、家庭部門の削減率が着実に高まっているとは言えないため、家庭部門の削減率を高めるべく区民の行動変容を促進していきます。一方、脱炭素社会の実現には区民・事業者・区の強固なパートナーシップが不可欠です。各主体の行動変容を促進して環境と経済の好循環を生み出すことで、持続可能な環境先進都市おおたの実現を目指します。特に、事業者の脱炭素経営の促進と区民の省エネ行動の拡大が、今後の鍵となります。

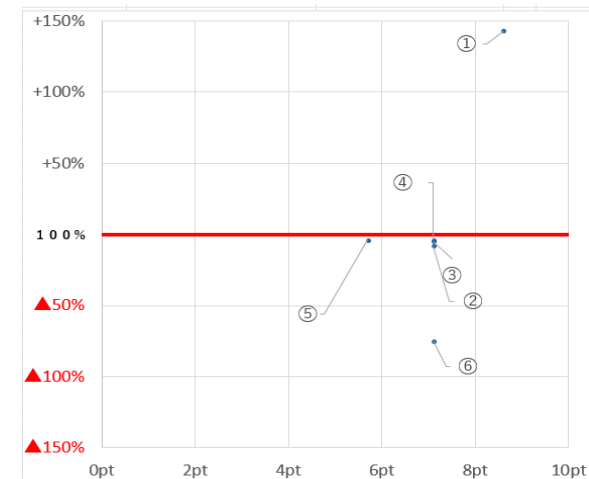
施策（取組の方向性）

環境配慮型ライフスタイルへの転換

区民・事業者・区が日常生活や経済活動の中で必要不可欠な電気やガス等のエネルギーの使用をできるだけ減らし、温室効果ガスの削減に加え、生物多様性の保全、資源循環にもつながる環境配慮型ライフスタイルへ転換していきます。

区民	くらしの中で省エネ家電の購入やこまめな節電等の省エネ行動を心掛けます。
事業者・区	職場では季節にあわせてクールビズ・ウォームビズをとりいれ、快適な室内温度で過ごします。

R6各事業の活動状況



取組

区民の行動変容の促進

事業	実績			R6 目標値	R7 目標値	事業設計 (各2点×7項目=14点満点 →10点満点に換算)	目標値設定理由
	活動	R 4	R 5				
環境に関する情報の提供	LINE「おおた環境ナビ」登録件数【実】	① -	-	485件	200件	600件	A/B/C/D/E/G 身近なSNSツールを通じて、環境問題に対する「気づき」や「学び」を得る契機を創出することで、区民の環境意識の高揚及び行動変容に繋がると想定し、LINEの登録件数を目標値とした。
区民運動おおたクールアクションの推進	環境意識の高揚（地域連携プロジェクト ワークショップ）	② -	-	92% 【24人】	100%	100% 【40人】	A/B/D/F/G 参加者の環境意識の高揚及び行動変容の促進を目的として実施していることから、事後アンケートにて「参加して環境意識が高まった」と回答した割合を目標値とした。
こども環境教室	環境意識の高揚（施設見学会）	③ - 【114人】	100% 【58人】	95% 【82人】	100%	100% 【110人】	A/B/C/D/F 参加者の環境意識の高揚及び行動変容の促進を目的として実施していることから、事後アンケートにて「参加して環境意識が高まった」と回答した割合を目標値とした。
イベントの開催・出展	環境意識の高揚（エコフェスタ）	④ - 【491人】	84% 【742人】	96% 【861人】	100%	100% 【★】	A/B/C/D/F 参加者の環境意識の高揚及び行動変容の促進を目的として実施していることから、事後アンケートにて「参加して環境意識が高まった」と回答した割合を目標値とした。
オンライン講演会	環境意識の高揚	⑤ -	- 【580人】	100% 【75人】	100%	100%	A/B/E/F 参加者の環境意識の高揚及び行動変容の促進を目的として実施していることから、事後アンケートにて「参加して環境意識が高まった」と回答した割合を目標値とした。

施策（取組の方向性）

環境配慮型ライフスタイルへの転換

取組

区民の行動変容の促進

事業	活動	実績			R6 目標値	R7 目標値	事業設計	目標値設定理由	
		R 4	R 5	R 6					
環境に関する情報の提供	環境啓発コーナーの運用	-	実施	実施	実施	-	-	A/D/F	常設コーナーであり、不特定多数の方が利用する場所であるため、目標値の設定は難しい。
	環境月間パネル展開催	-	実施	実施	実施	-	-	A/D/F	不特定多数の方が利用する場所での展示であるため、正確な実績の把握ができず、目標値の設定は難しい。
「地球にやさしいまちづくりポスター」コンクール	応募点数	-	実施 (429点)	実施 (539点)	実施 (312点)	-	-	A/B/C/F	区内在住・在学小中学生の自主的な応募による事業であるため、目標値の設定は難しい。
区民運動おたクールアクションの推進	省エネ講習会参加者数	-	実施 (31人)	実施 (66人)	実施 (49人)	-	-	A/B/C/D/F	自治会・町会等からの希望により実施する事業であるため、目標値の設定は難しい。
大田区地球温暖化防止アンバサダー	トークセッション開催校数	-	-	実施 (2校)	実施 (2校)	-	-	A/B/D/F	実施上限回数（区立小中学校の各1校ずつ）が決まっているため、目標値の設定はそぐわない。
こども環境教室	出前授業参加者数	-	実施 (57人)	実施 (366人)	実施 (443人)	-	-	A/B/D/F	学校からの希望により実施する事業であり、かつ、協力企業により実施上限回数が決まっているため、目標値の設定は難しい。
打ち水支援事業	給付件数	-	実施 (46件)	実施 (56件)	実施 (59件)	-	-	A/B/C/D/F	自治会・町会等からの希望によるものであり、かつ、「打ち水」は用具の給付有無にかかわらず促進していく事業であることから、給付件数に基づいた目標値を設定することは難しい。
Jークレジット創出プログラム（カーボンオフセット）	CO2削減量	-	-	-	-	-	-	A/D/E/F/G	令和7年度からの新規事業であり、クレジットの認証およびオフセットの見通しが立つのが令和8年3月の見込みのため、現時点では実績を踏まえた目標値の設定が難しい。

施策（取組の方向性）

環境配慮型ライフスタイルへの転換

取組

事業者の行動変容の促進

事業	実績				事業設計		目標値設定理由		
	活動	R 4	R 5	R 6	R 6 目標値	R 7 目標値			
CO ₂ 可視化システム導入事業	利用件数	⑥	-	-	5件	20件	20件	A/D/E/F/G	年度ごとにおける支援上限件数を目標値とした。
おおたクールアクション推進連絡会	活動報告会参加団体	-	34団体	31団体	22団体	-	-	A/D/F	賛同団体からの希望により実施する事業であるため、目標値の設定は難しい。
省エネ診断受診促進（東京都地球温暖化防止活動推進センター）	受診件数	-	24件	29件	35件	-	-	A/F	区内事業者からの希望により実施する事業であるため、目標値の設定は難しい。

施策（取組の方向性）

脱炭素まちづくりの推進

住宅や事業所における再生可能エネルギー導入拡大や高効率な機器・設備の導入拡大、環境性能の高い施設の整備による脱炭素化に取り組み、区民・事業者の活動の土台となる脱炭素まちづくりを推進します。

また、区は区有施設において、率先して脱炭素化に取り組むことで情報を発信し、区民・事業者の取り組みを支援し脱炭素まちづくりの実現をめざします。

区民

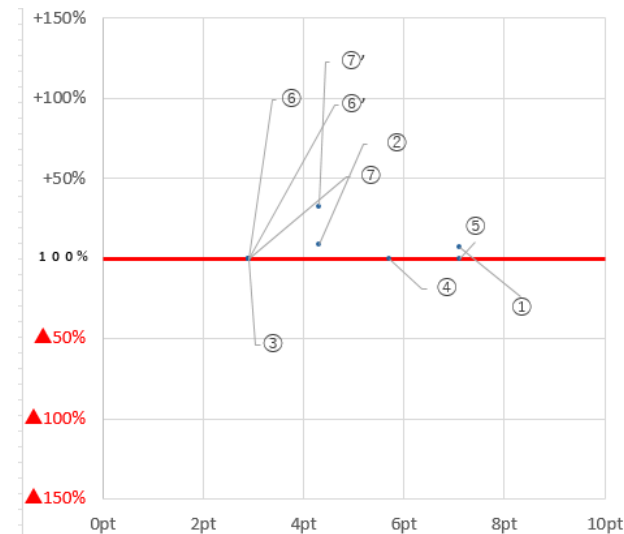
事業者・区

住まいやオフィスで再生可能エネルギーや高効率な機器・設備を利用し、脱炭素につながる暮らしや働き方を実現します。

取組

再生可能エネルギーの導入拡大

R6各事業の活動状況



事業	実績			R6 目標値	R7 目標値	事業設計 (各2点×7項目=14点満点 →10点満点に換算)	目標値設定理由
	活動	R4	R5				
太陽光発電設備・蓄電池導入促進（住宅リフォーム助成）	-	-	-	-	2	C/D/F	令和7年度から、住宅リフォーム助成事業にメニュー追加、（既存住宅に限る、区内事業者の施行に限るなど条件に合致した場合のみ該当。）

施策（取組の方向性）

脱炭素まちづくりの推進

取組

省エネ機器・設備の導入拡大

事業	実績					事業設計		目標値設定理由
	活動	R 4	R 5	R 6	R 6 目標値	R 7 目標値		
家庭用燃料電池（エネファーム）導入促進	助成件数	①	-	-	161	150	150	A/D/E/F/G 現在の助成実績を着実に継続して進めて行くという考えであり、毎年度同数を設定した。
企業立地・SDGs促進助成金	認定件数	②	-	-	46件	50件	38件	A/D/G 広報周知を着実に継続していくという前提のもと、初年度の実績を参考に申請の減少傾向を踏まえ設定した。
商店街のLED化	商店街数	-	1件	2件	0件	-	-	A/D 大多数の商店街で既にLED化が完了しており、これ以上の目標を設定することが難しいため。
公衆浴場施設改善助成 東京都「公衆浴場クリーンエネルギー化等推進事業補助金」	助成浴場数	-	6件	5件	1件	-	-	A/D 各浴場の施設改善に伴う補助金のため、目標を設定することが難しいため。

施策（取組の方向性）

脱炭素まちづくりの推進

取組 区による率先行動

事業	活動		実績			R6		R7	事業設計	目標値設定理由
			R4	R5	R6	目標値	目標値			
電力の環境性向上 （再エネ電力の調達）	区の電力契約における再エネ電力の割合	②	5.3%	5.3%	調査中	-	47.7%	A/F	<ul style="list-style-type: none"> ・R7新規再エネ電力契約切替施設の電力使用量を推計して、区有施設全体の電力使用量から割り返して算出。 ・今後、再エネ電力契約施設を増やして割合を上げていく。 	
	区有施設の電力排出係数	-	0.272	0.257	調査中	-	-	A/F		
先進的省エネ機器の導入	換気機能制御装置（延べ施設数）	③	-	3	5	-	5	A/E/F/G/	<ul style="list-style-type: none"> ・R7は先行導入施設の効果検証を行うため、R6と同施設数を設定。 ・今後は効果検証を基に対象候補施設を選定し、導入拡大を図る。 	
	空調機能制御装置（延べ施設数）	-	-	-	実証	-	-	A/E/F/G	<ul style="list-style-type: none"> ・R6~7は試験導入の実証効果検証期間。 ・今後は効果検証結果を基に、本格導入を進めていく。 	
水素を活用した高効率燃料電池の導入	高効率燃料電池の導入台数（延べ施設数）	④	-	-	1	1	1	A/D/E/F/G	<ul style="list-style-type: none"> ・R7は実証導入の結果を検証するためR6と同施設数を設定。 	
庁有車（乗用車）の電動化	導入台数（延べ台数）	⑤	21台	22台	25台	25台	35台	A/G	<ul style="list-style-type: none"> ・リース契約の更新時期などを整理した導入ロードマップの数値を反映。 	
	庁有車（乗用車）における電動車の割合	⑤	43.0%	45.0%	52.1%	52.1%	72.9%	A/G	<ul style="list-style-type: none"> ・リース契約の更新時期などを整理した導入ロードマップの数値を反映。 	
区有施設の脱炭素化	再生可能エネルギー設備の導入容量（延べ容量）	⑥	417.00kW	417.00kW	437.10kW	-	458.00kW	A/G	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の新築・改築計画による導入予定数値を反映。 	
	ZEB認証取得件数（延べ施設数）	⑥	1	1	4	3	6	A/E/G	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の新築・改築計画の予定数を反映。 	

施策（取組の方向性）

健やかで快適な暮らしの実現

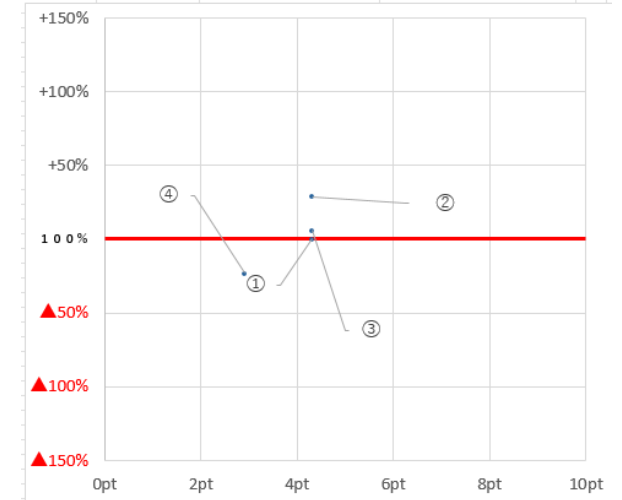
安全・安心で快適な生活環境を整えるために、騒音や振動の調査と改善、良好な大気・安全な水環境の保全、まちの景観の保護や地域が連携したまちの美化を進め、住み続けたいまちをめざします。

区民

喫煙マナーを守り、地域の美化活動に協力します。
暮らしや事業活動から出る大気汚染や騒音の発生防止に努めます。
ごみを減らし、川や海をきれいに保ちます。

事業者・区

R6各事業の活動状況



取組

屋外における喫煙対策の推進

事業	実績	事業設計		目標値設定理由								
		R6 目標値	R7 目標値									
公衆喫煙所の整備及び運用	<table border="1"> <thead> <tr> <th>活動</th> <th>R 4</th> <th>R 5</th> <th>R 6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>民設民営の公衆喫煙所整備助成件数</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	活動	R 4	R 5	R 6	民設民営の公衆喫煙所整備助成件数	1	0	1	1	2 【3】	A/C/F 公衆喫煙所設置に関しては、これまでの実績に基づいて毎年の民設民営の公衆喫煙所設置目標値を2か所としている。
活動	R 4	R 5	R 6									
民設民営の公衆喫煙所整備助成件数	1	0	1									
喫煙マナー等啓発・指導	<table border="1"> <thead> <tr> <th>活動</th> <th>R 4</th> <th>R 5</th> <th>R 6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指導員対応件数</td> <td>82</td> <td>79</td> <td>88</td> </tr> </tbody> </table>	活動	R 4	R 5	R 6	指導員対応件数	82	79	88	68	83 【★】	A/C/F 指導員対応件数は、区民からの苦情や相談が起点となり、区の指示によって指導員を派遣し啓発・指導を実施するものである。喫煙マナーが区民に浸透するためには、喫煙マナー啓発指導員を活用した継続的な指導が欠かせない。目標値については、直近3年間の指導員対応件数の平均値を用いた。
活動	R 4	R 5	R 6									
指導員対応件数	82	79	88									

施策（取組の方向性）

健やかで快適な暮らしの実現

取組 地域美化活動の推進

事業	実績					R6 目標値	R7 目標値	事業設計	目標値設定理由
	活動	R 4	R 5	R 6					
地域美化活動の支援 （支援用品の支給）	支援用品の支給 町会数	③	139町会	144町会	151町会	142町会	145町会 【★】	A/D/F	自治会・町会の希望による清掃・美化活動に対して、 清掃用品を配布する事業である。今後も各特別出張所を通じて 支援用品の支給についてPRを継続する。目標値については、 年度毎に各町会の事情も異なるため、直近3年間の支援 用品の支給を行った町会数の平均値を用いた。
はねぴょんごみゼロ ウォーク	支援用品 配布数（ごみ袋）	④	95袋	154袋	96袋	125袋	115袋 【★】	D/F	個人や企業・区民団体等からの希望による清掃・美化活動に 対して、清掃用品を配布する事業である。目標値については、 各団体が主催する美化活動イベントの回数や規模は毎年一定 ではないため、直近3年間の支援用品の配布数の平均値を用 いた。

取組 騒音・振動の実態把握

事業	実績					R6 目標値	R7 目標値	事業設計	目標値設定理由
	活動	R 4	R 5	R 6					
自動車騒音・振動調査	自動車騒音・振動 調査	-	実施	実施	実施	-	-	D/F	自動車騒音・振動の実態把握を目的としているため、目標設 定が適切ではない事業。
航空機騒音調査	航空機騒音調査	-	実施	実施	実施	-	-	B/C/D/F	航空機騒音の実態把握を目的としているため、目標設定は適 切ではない事業。

施策（取組の方向性）

健やかで快適な暮らしの実現

取組

その他の取組

事業	実績			R6 目標値	R7 目標値	事業設計	目標値設定理由		
	活動	R 4	R 5					R 6	
ポリ塩化ビフェニル（PCB）廃棄物に関する取組	-	-	実施	実施	実施	-	-	A/D	PCB特措法に基づく、区の施設で使用されている電気機器に含まれるPCB廃棄物を処分する事業（処分期限は令和8年度末）であり、義務的な事業のため目標値の設定には適さない。

施策（取組の方向性）

健やかで快適な暮らしの実現

取組 大気環境の実態把握

事業	活動	実績			R6 目標値	R7 目標値	事業設計	目標値設定理由	
		R 4	R 5	R 6					
大気汚染常時監視	大気汚染常時監視	-	実施	実施	実施	-	-	D/F	大気汚染状況の実態把握を目的としているため、目標設定が適切ではない。

取組 住まいと工場が共存するまちづくり

事業	活動	実績			R6 目標値	R7 目標値	事業設計	目標値設定理由	
		R 4	R 5	R 6					
工場公害対策等	工場等への指導	-	実施	実施	実施	-	-	C/F	工場認可申請は事業者の事業活動に応じて為されるものであり、目標値の設定には適さない。
化学物質の適正管理	化学物質の適正管理及び指導	-	実施	実施	実施	-	-	C/F	化学物質の使用は事業者の事業活動に応じて為されるものであり、目標値の設定には適さない。
区民の快適な生活環境の保全	公害苦情及び相談対応	-	実施	実施	実施	-	-	C/F	苦情及び相談対応は、区民からの依頼が起点となるため、目標値の設定には適さない。
アスベストの飛散防止対策	アスベスト飛散防止対策の監視指導	-	実施	実施	実施	-	-	C/F	アスベストに係る監視指導は、建築物等の解体や改修に応じて行うものであり、目標値の設定には適さない。

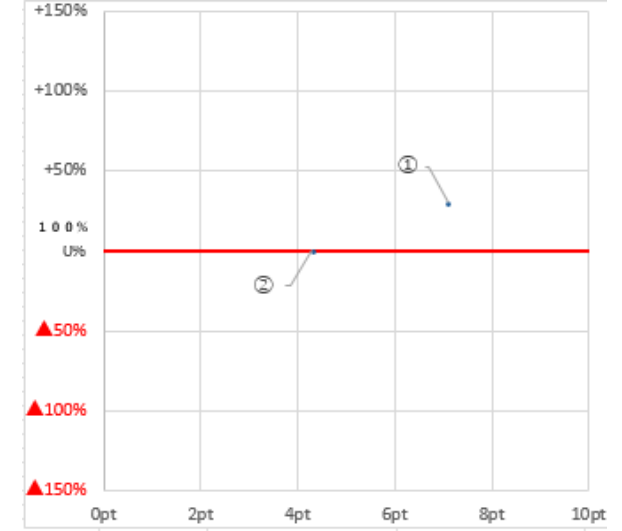
施策（取組の方向性）

環境にやさしい移動・輸送手段の充実

日常生活や事業活動の中で、公共交通機関、自転車の利用や徒歩を選択し、自動車を利用する場合は、環境にやさしい自動車を積極的に選択します。

区民	移動にはできるだけ公共交通機関やカーシェアリングなどシェアリング型の交通サービスを利用します。
事業者・区	自動車は低燃費で低排出ガスの車両を利用し、エコドライブを心がけます。また、ZEVの利用を積極的に進めます。

R6各事業の活動状況



取組

移動手段の脱炭素化の普及・促進

事業	活動	実績			R6 目標値	R7 目標値	事業設計 (各2点×7項目=14点満点 →10点満点に換算)	目標値設定理由	
		R4	R5	R6					
E Vカーシェアリング普及事業	稼働率（1日24hを稼働時間とした場合）	① -	26%	26%	20%	30% 【13%】	A/D/E/F/G	・事業継続の観点から、カーシェアリング事業の最低採算ライン稼働率（20%）の達成を毎年度の目標に設定した。 （※13%→20%に修正） ・数値は経産省の検討会資料より。	
大田区コミュニティバス「たまちゃんバス」	-	-	運行	運行	運行	-	-	A/C/D/F/G	自動車利用の抑制へ向けて、安定的な継続運行を維持していくことが本事業の目標であるため数値設定は難しい。
大田区コミュニティサイクル事業	サイクルポート整備数	-	17ポート	13ポート	32ポート	-	-	A/B/C/E/F/G	サイクルポート数は既に目標を達成しており、現在、需要に応じた設置判断をしているため、新たな目標数の設定はない。需要予測が困難なため、設置地域(場所)の想定も不可能である。
自転車走行環境の利用	自転車走行環境整備距離	②	累計 157km	累計 170km	累計 170km	累計 170km	累計 170km	A/B/G	目標としていた区道約170kmの自転車走行環境整備はR5年度に概成しているため。

R6大田区における自然再興の取組

I.概要と目標

大田区は、持続可能な環境の実現と生物多様性の保全を目指し、「自然再興（ネイチャーポジティブ）」をテーマにした多面的な取り組みを進めています。グリーンインフラ事業計画の推進などの緑を保全・活用する取組、保護樹木や緑の講演会などの緑の保護と啓発活動や、自然観察会・体験会、水環境の実態把握など様々な施策を展開しています。

カギ（視点）	指標	計画策定時	最新値	目標値	達成度
自然再興の取組 環境	みどり率	25.3% 2018年度実績	-	28%	-
	(参考) 緑被率	(参考) 18.32%	-	(参考) 21.5%	-
環境×生活	生き物の豊かさの満足度	27.2% 2023年度実績	44.1% 2025年度実績	40%	110.3%
	身近な場所で水や緑に親しめると感じている区民の割合	58.8% 2024年度実績	61.1% 2025年度実績	62%	98.5%
環境×経済	環境に配慮した経営をする企業の割合（生物多様性）※中小規模事業所	4.9% 2023年度実績	-	29%	-

II.取組

1.緑を保全・活用する取組

- 1.グリーンインフラ事業計画の推進
- 2.みどり基金の利活用



区民農園（グリーンインフラの一例）



みどり基金チラシ

II.取組

2.緑の保護と啓発活動

- 1.樹木の保護（保護樹、保護樹林等）
- 2.緑の講演会、緑の普及講座
（緑のカーテン、親子でガーデニング）



緑の普及講座 作品例

3.自然観察会・体験会

- 1.自然観察路を中心とした自然観察会
- 2.コアジサシ保護活動、田んぼづくり、定例干潟の観察会（NPOとの共催）

4.水環境の実態把握

- 1.河川や海域の水質等の調査
- 2.水辺の生き物の調査の実施



京浜島つばさ公園で確認された
コアジサシ



自然観察会

III.今後の展望

自然環境の保全と再生には区民・事業者・区が連携した長期的な取り組みが必要です。各主体のグリーンインフラ導入を促すことで、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある環境の実現を目指します。また、緑を守り、増やしていく取組や、区民が緑や自然に親しめる活動を通して、自然環境への意識向上や行動変容を図り、自然再興（ネイチャーポジティブ）の取組を推進していきます。

施策（取組の方向性）

みどりのまちの実現

大田区に残る豊かなみどりや水辺環境の保全に取り組むとともに、区民・事業者の主体的な新たなみどりの創出の機会を提供し、みどりづくりの支援を推進します。

区民

公園や河川等の水辺とみどりに親しみ自然に触れる機会を増やします。

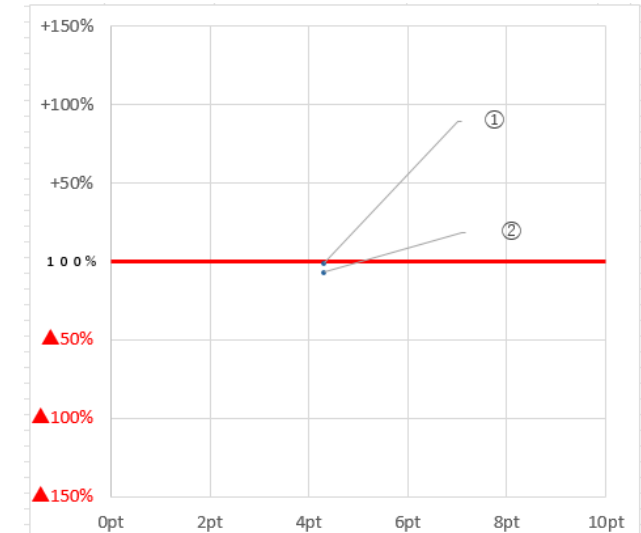
区民・事業者・区

身近なみどりを育み、まちを花とみどりで彩ります。

取組

緑化の推進

R6各事業の活動状況



事業	実績					R6 目標値	R7 目標値	事業設計	目標値設定理由
	活動	R 4	R 5	R 6					
緑の保護	保護樹 ①	1,075本	1,068本	1,053本		1069本	1,028本【★】	A/B/D	所有者による自主的な申し込みであり、また初期登録樹木の寿命が到来しており、目標値設定が困難である。
緑の普及啓発	緑の普及講座等 ②	実施【190人】	実施【172人】	実施【138人】		149人	実施【★】	A/C/F	事業参加をきっかけとして、環境意識の高揚及び行動変容の促進を目的として実施していることから、今後は、事後アンケートにて「参加して環境意識が高まった」と回答した割合を目標値とすることを検討する
	おおたの名木選周知 -	実施	実施	実施		-	-	C/D	名木の保全を目的とし、目標達成度が測ることが困難であるため、数値目標の設定は適さない。

施策（取組の方向性）

みどりのまちの実現

取組

グリーンプランとの連携

事業	活動	実績			R6 目標値	R7 目標値	事業設計	目標値設定理由
		R 4	R 5	R 6				
環境保全、地域振興に資する みどり空間の整備	みどり空間の整備	-	-	-	-	2か所	C/D/F	グリーンインフラを取り入れたみどり空間の整備によりみどりのまちの実現につながることから、整備箇所数を目標値とした。
防災・減災に資する雨水浸透・ 貯留設備の設置	雨水浸透・ 貯留設備の設置	-	-	-	-	-	C/D/F	令和9年度の公園等への雨水浸透・貯留設備の設置を目指し、令和7年度は設置対象箇所の検討を予定しており、令和7年度単年度の目標値の設定は難しい。
みどり基金の利活用	基金の周知・運用	-	-	-	-	-	C/D/F	基金は個人や法人からの自発的な寄附によるものであるため、目標値の設定は難しい。

施策（取組の方向性）

生物多様性の保全・再生

水とみどりのネットワークを構築することで、多くの生き物の生息空間を確保し、将来に向けた生態系の維持に貢献します。多様な生き物が生きることのできる環境づくりの一層の推進と、身近な存在としてその大切さの理解促進を図ります。

区民・事業者・区

生物多様性の現状を学び、知ること、生き物を守り育てます。

区民・事業者

生物多様性の保全に配慮した製品や食品を選びます。

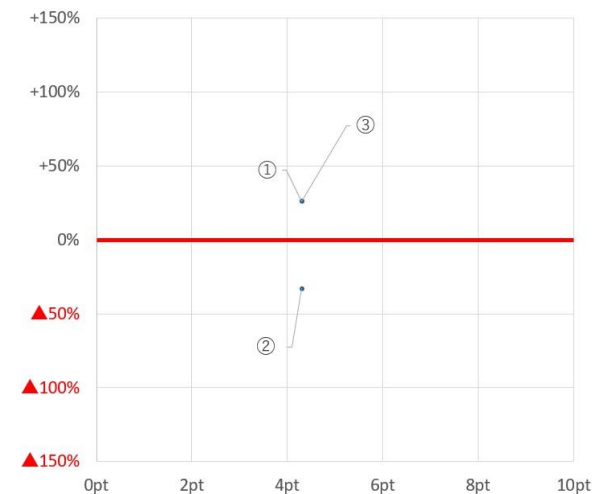
事業者・区

生物多様性の保全に配慮した原材料調達や製造工程で製品作りを実践します。

取組

自然環境の保護

R6各事業の活動状況



事業	実績	R6			R6 目標値	R7 目標値	事業設計	目標値設定理由
		R 4	R 5	R 6				
自然観察会・体験会	自然観察会参加者数 ①	実施【105人】	実施【143人】	実施【111人】	88人	実施【★】	A/C/D	事業参加をきっかけとして、環境意識の高揚及び行動変容の促進を目的として実施していることから、今後は、事後アンケートにて「参加して環境意識が高まった」と回答した割合を目標値とすることを検討する
特定外来生物の防除	ハクビシン等被害対策わな設置件数 ②	144件	206件	116件	174件	155件【★】	A/C/D	生物の生息状況は年度毎で異なり、加えて区民申し込み事業であるため、過去目標値設定が難しい。過去3年の平均値を目標値としたが、今後適切な目標値の変更を検討する。
野生鳥獣対策	カラス被害対策対応件数 ③	40件	43件	52件	41件	45件【★】	B/C/D/F	生物の生息状況は年度毎で異なり、加えて区民申し込み事業であるため目標値設定が難しい。過去3年の平均値を目標値としたが、今後適切な目標値の変更を検討する。
自然観察路	周知	実施	実施	実施	-	-	D	長期的な保全の性質上、目標達成度が測ることが困難であるため、数値目標の設定は適さない。

施策（取組の方向性）

生物多様性の保全・再生

取組 自然環境の保護

事業	活動	実績			R6 目標値	R7 目標値	事業設計	目標値設定理由
		R 4	R 5	R 6				
(仮称) 生物多様性マップ	-	-	-	-	-	-	A/D	令和7年度に生物多様性データ整理し、一部をマップ化しPDFで公開する。 今後、データの活用により生態把握や自然再興への意識啓発を図る。

取組 水環境の実態把握

事業	活動	実績			R6 目標値	R7 目標値	事業設計	目標値設定理由
		R 4	R 5	R 6				
河川・海域調査	河川・海域調査	実施	実施	実施	-	-	C/D/F	河川・海域の実態把握を目的としているため、目標設定が適切ではない事業。
水辺環境改善対策等	呑川の水環境実態調査 監視日数	実施	実施	実施	-	-	C/D/F	呑川の改善状況の把握を目的としているため、目標設定が適切ではない事業。
	水質関係異常事故	実施	実施	実施	-	-	C/D/F	水辺での事故発生時の対応のため、目標設定が適切ではない事業。
水生生物・鳥類調査	水生生物・鳥類調査	-	実施	-	-	-	C/D/F	水生生物・鳥類調査を行い、水辺の状況を把握することを目的としているため、目標設定が適切ではない事業。

R6大田区における循環経済への移行

I.概要と目標

第2次大田区環境基本計画は、「持続可能な環境先進都市おおた」を目指し、特に循環経済への移行を重要な柱として設定しています。

循環経済とは、資源を再利用し、ごみを最小限に抑えることで、持続可能な社会を構築する考え方です。この移行において、以下の目標値を設定しておりますが、目標値の達成のためには、区民・事業者・区の一層の行動変容・変革が求められます。

カギ(視点)	指標	計画策定時	最新値	目標値	達成度
循環経済への移行 環境	区民1人1日当たりのごみ量と資源の総量	585g 2023年度実績	569g 2024年度実績	542g	37.2%
環境×生活	ごみ減量・リサイクルに取り組む区民の割合	73.9% 2023年度実績	- (2026年度予定)	80%	-
	家庭系食品ロス量の削減率(2021年度比)	-	▲3.4% 2022年度実績	▲31%	10.9%
環境×経済	環境に配慮した経営をする企業の割合 (資源循環)※中小規模事業所	39.0% 2023年度実績	- 2026年度予定	54%	-
	事業系食品ロス量の削減率(2021年度比)	-	▲17.1% 2022年度実績	▲31%	55.1%

II.取組

1.ごみを排出しないライフスタイルへの転換

1. ごみの正しい排出方法の周知(冊子・リーフレット配布、アプリ配信)
2. 区民への3R周知・推進活動(古着の拠点回収、排出(ふれあい)指導)
3. 事業者に対する啓発・排出指導(講習会、立入指導調査等)



ごみ分別アプリ



ふれあい指導

廃棄物管理責任者講習会



II.取組

2.資源の再生利用の推進

1. 資源プラスチック分別回収の実施
2. 廃食用油のSAFリサイクル(民間6社と連携し、回収からSAF製造までを実施)
3. 不燃ごみの適正処理及び資源化事業

3.食ロス削減の推進

1. 区民への食ロス削減周知(出前事業、企業と連携し食ロス削減への行動変容支援(食べきり応援団))
2. 発生した食ロスの有効活用(フードドライブ等)



民間企業6社との連携協定を締結(SAF)



食べきり応援団



フードドライブ(お預りした食品)

III.今後の展望

循環経済への移行を促進するには、行政だけでなく区民や事業者との連携が不可欠です。今後は、各主体の行動変容を一層促すべく、3Rの周知・普及啓発・指導をさらに推進するとともに、プラスチックの分別回収を始めとした資源の再利用や食品ロス削減に向けた施策を積極的に展開していきます。さらに、取り組み結果を定期的に評価し、必要に応じて施策を見直しながら、持続可能な未来を見据え、ごみ量の削減と資源化率の向上といった目標の達成を目指し、循環経済への移行を着実に進めていきます。

施策（取組の方向性）

ごみを排出しないライフスタイルへの転換

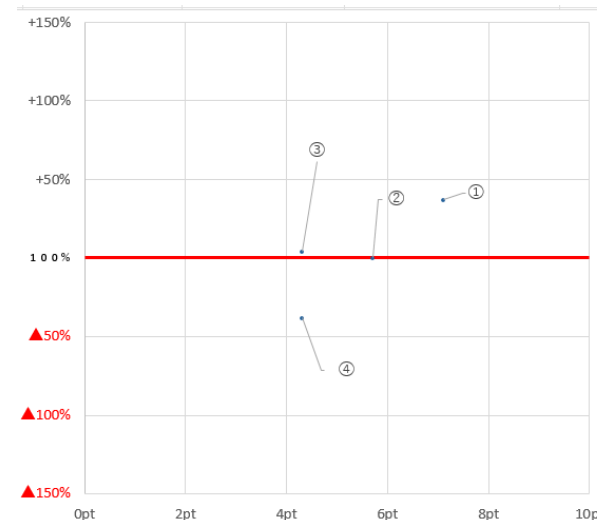
一人ひとりがごみを減らし（Reduce）、再使用（Reuse）を心がけ、可能な限りごみを排出しないライフスタイルへの転換を進めます。

区民	買い物はマイバッグを持参し、詰め替え等の環境に配慮した製品を選び、使い捨てを減らします。 使えるものは捨てずに、フリーマーケット等を通じて必要な人に渡し再使用します。
事業者・区	DX化により紙の削減や事業活動の無駄な資源を減らします。

取組

ごみ減量・3R推進のPRの充実

R6各事業の活動状況



事業	実績	R6		R7		事業設計	目標値設定理由
		R 4	R 5	R 6	目標値		
冊子・リーフレット等配布、アプリ配信（広報活動）	スマートフォンアプリダウンロード数 ①	11,125件	11,809件	16,152件	11,809件	17,000件	A/B/C/D/G 身近なSNSツールを通じて正しい排出方法等を簡単に確認できることで、区民の分別意識の醸成に繋がると想定し、アプリのダウンロード件数を目標値とした。
イベント参加によるPR	参加イベント数 ②	6件	6件	6件	6件	6件	A/B/C/F 区民の環境意識の向上及び行動変容の促進を目的としてイベント参加していることから、参加イベント数を目標値とした。
古着の行政回収モデル事業	回収量 ③	93,724kg	107,590kg	112,157kg	107,590kg	124,000kg	A/C/D 参加者の環境意識の高揚及び行動変容の促進を目的として実施していることから、回収量を目標値とした。
民間等と連携した古着の回収循環型モデル事業	回収量 ④	-	-	13,075kg	21,000kg	24,000kg	A/C/D/F 参加者の環境意識の高揚及び行動変容の促進を目的として実施していることから、回収量を目標値とした。
資源循環学習教室等の実施	資源循環学習教室等 参見団体数	12団体	12団体	19団体	-	-	A/C/D/F 効果的な目標値設定について検討中のため、現時点では設定が難しい。
ふれあい指導の推進	啓発指導 実施集積所数（延べ）	3,640か所	2,343か所	5,534か所	-	-	A/B/C/D 指導数の増減では目標達成度が測れないため、目標値の設定は難しい。

施策（取組の方向性）

ごみを排出しないライフスタイルへの転換

取組

ごみ減量・3R推進のPRの充実

事業	実績	R6		R7		事業設計	目標値設定理由
		R 4	R 5	R 6	目標値		
事業者に対する排出指導	立入指導調査件数 (事業用大規模建築物)	163件	159件	175件	-	-	A/B/C 指導数の増減では目標達成度が測れないため、目標値の設定は難しい。
	立入指導調査 (事業用建築物)	122件	188件	153件	-	-	A/B/C 指導数の増減では目標達成度が測れないため、目標値の設定は難しい。
事業者に対する普及・啓発	廃棄物管理責任者講習会 受講事業者数	107所	118所	142所	-	-	A/C/F 受講者数の増減では目標達成度が測れないため、目標値の設定は難しい。
	廃棄物の減量及び適正 処理事業者等表彰	3件	3件	2件	-	-	A/C 表彰数の増減では目標達成度が測れないため、目標値の設定は難しい。
浄化槽清掃業者の許可・指導	-	実施	実施	実施	-	-	A 実施数の増減では目標達成度が測れないため、目標値の設定は難しい。

施策（取組の方向性）

ごみを排出しないライフスタイルへの転換

取組

Reduce・Reuse

事業	活動	実績			R6 目標値	R7 目標値	事業設計	目標値設定理由
		R 4	R 5	R 6				
民間事業者を活用したリユース推進事業	-	-	実施	実施	-	-	C/E/F	把握している実施数では目標達成度が測れないため、目標値の設定は難しい。
粗大ごみからのピックアップ回収	羽毛布団	2,405枚	2,065枚	2,469枚	-	-	C	ピックアップ回収量の増減では目標達成度が測れないため、目標値の設定は難しい。
	衣装ケース	32,570kg	49,430kg	49,360kg	-	-	C	ピックアップ回収量の増減では目標達成度が測れないため、目標値の設定は難しい。
	自転車	4,984台	6,847台	10,826台	-	-	C	ピックアップ回収量の増減では目標達成度が測れないため、目標値の設定は難しい。

施策（取組の方向性）

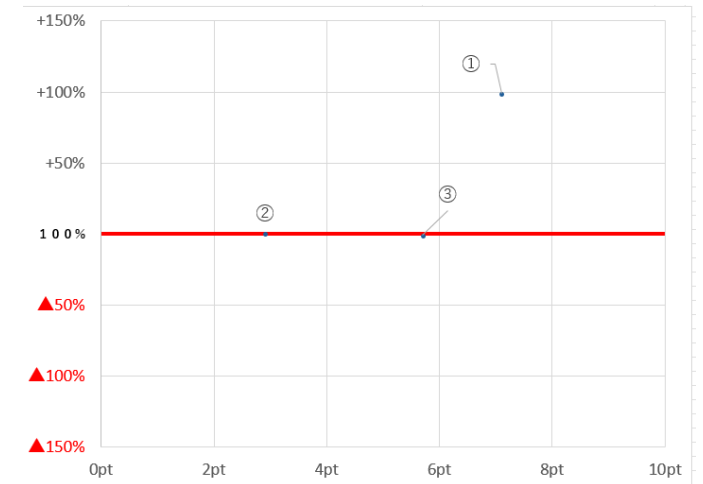
資源の再生利用の推進

ごみを減らし再使用しても残ってしまう不要物については、可能な限り再生利用（Recycle）します。また、植物由来のバイオプラスチックなど再生可能な（Renewable）資源を利用する取組を進めます。

区民	資源とごみの分別を徹底し、積極的に集団回収にも参加します。
事業者・区	環境に優しい原料や工程で製品を製造し、ごみとなったものは適正に処理します。

取組 Recycle

R6各事業の活動状況



事業	実績	R6		R7	事業設計	目標値設定理由		
		R 4	R 5				R 6	目標値
資源プラスチック回収	分別率（※） （回収量）	① 18.33% (119,630kg)	22.7% (936,100kg)	23.9% (1,858,200kg)	22.7% (936,100kg)	23%	A/C/D/E/G	区民の分別意識と回収率の向上を目的として実施していることから、回収量を目標値とした。
廃食用油のSAFリサイクル	廃食用油回収量	② —	—	639 L	—	3,450 L	C/D	参加者の環境意識の向上及び行動変容の促進を目的として実施していることから、回収量を目標値とした。
集団回収事業への支援	活動実績数	③ 740団体	748団体	742団体	748団体	748団体【★】	A/C/D/F	団体数の大幅な増加は見込めないものの、環境意識の向上等につながるため実績数を今後の目標値とした。
資源の行政回収・集団回収	行政回収 収集量	25,215t	24,300t	23,894t	—	—	C/D/F	回収量の増減では目標達成度が測れないため、目標値の設定は難しい。
	集団回収 収集量	10,071t	9,420t	8,567t	—	—	C/D/F/G	回収量の増減では目標達成度が測れないため、目標値の設定は難しい。
資源持ち去り防止パトロール	警告書交付	31件	13件	23件	—	—	A/C/D	交付数の増減では目標達成度が測れないため、目標値の設定は難しい。

（※）R4～R6実績は、一部先行実施地域のため参考数値

施策（取組の方向性）

資源の再生利用の推進

取組

Recycle

事業	活動	実績			R6 目標値	R7 目標値	事業設計	目標値設定理由
		R 4	R 5	R 6				
不燃ごみの適正処理及び資源化事業	資源化量	-	1,336t	1,317t	1,209 t	-	-	A/C/D 回収量の増減では目標達成度が測れないため、目標値の設定は難しい。
小型家電リサイクル事業	資源化量	-	2,114,292kg	1,990,346kg	2,106,828kg	-	-	C/D 回収量の増減では目標達成度が測れないため、目標値の設定は難しい。
ペットボトルのボトルtoボトル水平リサイクル	-	-	-	-	実施	-	-	A/C/D/E/F/G 回収量の増減では目標達成度が測れないため、目標値の設定は難しい。

施策（取組の方向性）

食品ロス削減の推進

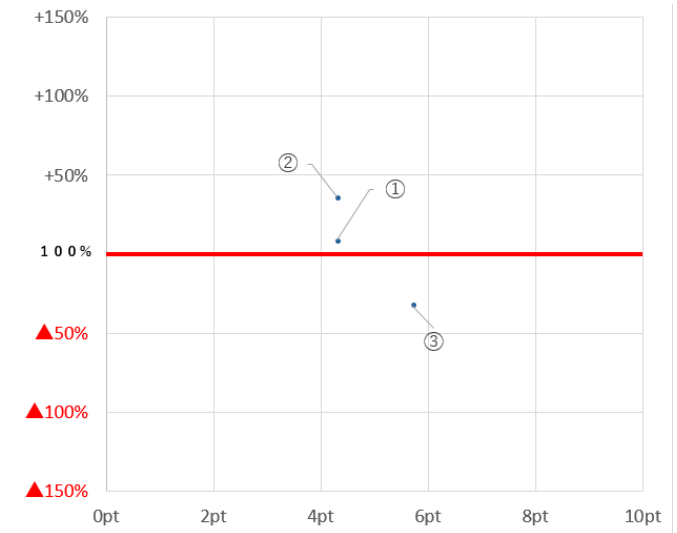
食品ロスの削減は、ごみの削減であると同時に、調理にかかったエネルギーや資源など、様々な”もったいない”を解消する取組です。食品ロスについてよく知り、食品ロスを出さない意識を持ち、削減行動を実践します。

区民	食品の買いすぎや調理による作りすぎ、食べ残しを減らします。
事業者・区	食品の製造工程で出るロス、フードドライブ等を通じて有効活用します。

取組

食品ロス削減への行動変容

R6各事業の活動状況



事業	活動	実績	実績					事業設計		目標値設定理由
			R 4	R 5	R 6	R6 目標値	R7 目標値			
食品ロス削減事業	大田区食べきり応援団 年度末登録事業者数	①	48事業者	54事業者	59事業者	54事業者	64事業者	A/D/F	参加者の環境意識の高揚及び行動変容の促進を目的として実施していることから、登録者数を目標値とした。	
	出前授業 参加者数	②	282人	380人	518人	380人	600人	A/E/F	参加者の環境意識の高揚及び行動変容の促進を目的として実施していることから、参加者数を目標値とした。	
フードドライブ	フードドライブ 回収量	③	2,139kg	1,394kg	885kg	1,308kg	1,000kg	A/C/D/F	参加者の環境意識の高揚及び行動変容の促進を目的として実施していることから、回収量を目標値とした。	
食品ロス削減月間における 普及啓発	食品ロス削減月間 パネル展開催	-	-	実施	実施	-	-	A/B/D	不特定多数の方が利用する場所での展示であるため、正確な実績の把握ができず、目標値の設定は難しい。	